

第五回留学報告書

2022/06/29

2020年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生 / MIT EECS PhD student

五十嵐祐花

この半年間は2年間の努力の集大成というか、成果が目に見える形で出始めた半年間だったのかなと思います。2年間作っていたExoというプログラミング言語の論文が分野のトップ会議であるPLDI 2022に採択され、6月に口頭発表を行いました。Exoは企業からの関心も高く、今年の夏はAppleで彼らのハードウェアにExoを使うためにインターンをしています。また、博士課程の途中経過でしかありませんが、今年の5月にMITから修士号を取ることが出来ました。

Exoは研究者からの関心も企業からの関心も高く、何より指導教官の関心が非常に高く、軌道に乗っていることを実感しています。もちろん優秀な共著者達のおかげですが、少なくとも博士課程の最初の2年間の成果としては上々かなと思うのでホッとしています。前に「アメリカの大学院で博士課程するってぶっちゃけ辛いですか?」という質問をされ、その時はうまく答えられなかったのですが、今思うと辛いことだけを求めるなら指導教官を持たず一人で研究するのが一番辛い時間かかると思います。わざわざ博士課程で留学するのは、優秀な共著者や環境を手に入れる事で unnecessary 苦勞をせずに大きな成果を得るためなのかなと今は思います。

春学期は授業が本当に忙しかったです。Distributed Systemsという授業を取っていたのですが、毎週のコーディング課題に加え、毎週2回の論文のreading assignment、また中間試験も期末試験もあり、本当に死にそうでした。授業がない夏休みの今、普段どれだけ授業に時間と精神的余裕を取られていたか実感しています。2年間でコンピュータサイエンスの授業の単位は取り終えたため、これからおそらく一生専門の授業を取る必要がないと思うととても嬉しいです。

6月からはAppleでインターンをしています。企業でインターンをするのもサウスベイで生活するのも初めてなので、日々新しい発見があって楽しいです。ExoをAppleのハードウェアに応用する仕事をしており、大学にいるのとほぼ変わらない仕事をしながらお金はたくさん貰えるし無料でホテル暮らしも出来るので天国みたいな生活ではありますが、物事の優先順位が企業と大学では違うんだなあということを日々実感しています。

6月中旬にはサンディエゴで開催されたPLDIという学会に赴きExoの研究の発表をしました。対面の学会に参加したのは実に2年半ぶり、本当に濃い時間を過ごすことが出来ましたが、学会でコロナに罹ってしまいました。学会の後半はコロナの症状が最高潮で午後は本当に辛く、ホテルの部屋で寝ていました。無事自分の発表がある日には少し回復することができ、なんとか発表を行うことが出来ました。トークに対してはどんなに酷くても褒められるのがデフォルト

なため実際のどの程度出来が良かったかは分かりませんが、少なくとも私の指導教官からは明確に絶賛されてI feel parental prideとも言われたので、それなりに良い出来だったのではないかと思います。聴衆からも発表の後、個別にたくさん質問をいただきました。



ボストンの冬は悪名高いですが、2年目にしてやっと楽しく過ごすコツを見つけた気がします。コツはズバリ、ウィンタースポーツを楽しむ事です。今年はMIT Outing Clubに入部し、winter schoolに参加しました。1月にはクラブで毎週末スキーに行き、また平日はアイススケートを楽しみました。

5月は2020年に渡米してきて以来初めて、2週間日本に一時帰国しました。友達の結婚式に出席するのが主目的でしたが、祖父母の家を梯子したり毎日友達と会うイベントが複数あったりなどで疲れつつも楽しかったです。自分の主戦場であるアメリカ国外にも帰れる場所、待っていてくれる人達がいるというのは有り難いことだなと思います。アメリカ出身者だと逃げ帰る場所がないというのは結構辛いんじゃないかなと周りを見ていて少し思います。



2年ぶりに対面で開催されたMITの卒業式ではJapanese Association of MIT(JAM)の歴代4代会長がバットリ道で会うという偶然がありました。このようなコミュニティが作られ維持されて来たことは本当に貴重な事だと思います。私の代で絶やさないように頑張ります。

結びになりますが、留学を実現するチャンスを与えてくださった船井情報科学振興財団の皆様
に誠に感謝いたします。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。